

(第3種郵便物認可)

消費者とつながる仕組み作る

豊田市 営農組合がクラウドファンディング

「押井の里守ろう」



【愛知】中山間地域に位置する豊田市旭地区に、農地中間管理事業を活用した集落営農組織として水田6畝を耕作している(一社)押井営農組合(鈴木辰吉代表理事)は、「源流

米ミネアサヒCSAプロジェクト」としてクラウドファンディングを11月11日まで実施している。このプロジェクトは、消滅の危機にある集落「押井の里」を守るため、生産者

と消費者がつながって、双方が豊かになるという米の「自給家族」の理念を知ってもらおうとともに、集まったお金でお米を保存する保冷庫を設置する予定。クラウドファンディングとは、不特定多数の人がインターネットを通じて他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うもの。出資額に応じて「源流米ミネアサヒ」が届くほか押井の里の家族として交流イベントに参加できる。

出資者への返礼品のミネアサヒは「幻の米」とも呼ばれ中山間地域のきれいな水と登熟期間の昼夜温度差

が大きい場所で生産されるため、生産量が少なくほとんど市場へは流通せず自給で消費されている。押井営農組合では、農薬や化学肥料を慣行栽培の2分の1以下に減らした「特別栽培米」として生産している。

鈴木代表は「今回のクラウドファンディングで多くの方に『源流米ミネアサヒ』を試食していただき、12月から新たに始める『自給家族』の募集では、まず30家族と契約したい。そして2024年には100家族に増やしたい」と意気込む。

同組合は、愛知県で第2号となる「地域まるっと中間管理方式」で一般社団法人化をして魅力ある地域づくりに取り組んでいる。CSAとは、消費者が生産者に代金を前払いして、

定期的な作物を受け取る契約を結ぶ農業のこと。農のリスクをとる。ちあう仕組みとして、ヨーロッパやアメリカで広まっている。